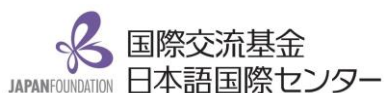


作文の教え方

Unit 2 実践 Part 3 文章完成までのプロセスと評価



I はじめに

いよいよ最後のパートになりました。早速始めていきましょう。このパートでは、推敲のプロセス、フィードバックと評価を扱います。

- 文章(テキスト)を完成させるまでに書き手は「推敲」を重ねます。「推敲」とは「文章をよりよくするために何度も考え書き直す」という意味です。推敲の際、どのような点に注目しますか。
- 文章(テキスト)が完成したら教師はどのようなフィードバックを返しますか。
- 文章(テキスト)が完成したら、どのように評価をすればいいでしょうか。
- 作文の授業は半年や1年などまとまった期間行うことが多いですが、その間の書く力の伸びをどのように評価すればいいでしょうか。

このパートのキーワード

推敲 フィードバック 添削 評価シート 自己評価 教師評価 ポートフォリオ

2 推敲のプロセス どこに注目するか

ここに、ある学習者が書いたブログの一部があります。これから推敲するのですが、どこに注目すればいいと思いますか。

彼は日本のアーティストの中で有名なシンガーソングライターであるだけでなく、世界中で知られています。彼はミュージックワールドツアーをしたとき、アメリカとカナダも行ったことがあります。どこになんでも、youngさんのプレゼンテーションを行うとき、いつもお客さんがたくさん行きます。私にとって youngさんの声はとても特別な声です。実は彼の声のトーンは劇的なテナーですから、低いトーンから、すごく高いレベルまで歌えます。とってもカッコいいよ!

推敲の観点

では、いっしょに考えていきましょう。推敲のときは、次の3つの観点について確認します。

一つ目。内容について。今回の課題は、「好きなアーティストについて詳しく紹介するブログを書く」ことが目的だったので、ここを外したら何のために書いたのかわからなくなってしまいますね。計画のプロセスで、思考ツールを使って書きたい内容を整理しましたが、これらをもう一度読み返して、書いた文章と照合します。必ずしも書く前に決めていたことと全く同じである必要はありませんが、変更する場合はいつの間にか変わってしまっているのではなく、自分の内容が修正されていることを自覚する必要があります。課題、読み手、目的をふりかえって見直し、計画した内容と同じものが書けているか、または意識的に修正しつつ、よりよい内容

が書けているか確認することが大切です。

二つ目。言語項目。例えば、漢字やかな、句読点^{くとうてん}にまちがいはないか。語彙や表現、文型や助詞などにまちがいはないか。丁寧体(ですます)と普通体(だ、である)を混ぜて書いているか。文と文、段落と段落のつながりはわかりやすいかなどについて確認します。

三つ目。読み手。日常生活での書く活動には読み手がありますが、読み手意識とは、「知識がない人が読んでも内容を理解できるか。読み手が知りたい情報が含まれているか。」

「わかりやすい流れで書いているか」「読み手に合った適切な^{てきせつ}表現、文体を使って書いているか」ということです。全体を読み直して、読み手を意識した書き方をしているかどうか、確認します。

【タスク1】下の指示文を読んで、学習者が書いた下のブログを直すとしたら、どこを指摘^{してき}しますか。

あなたは自分のブログを持っています。今日は好きなアーティストについて書きます。そのアーティストについて、なぜ好きなのか、何という曲が好きなのか、どうして好きなのか、歌以外にどんなところが好きなのかなど、具体的に書いてください。(500字程度)

私は好きなアーティストはニカータです。ニカータは〇〇人のファッションデザイナーです。自分のブランドがあり。“NKK”というブランドです。実は前にニカータは誰か誰も知らなかったが女性はSNSでニカータの事についてビデオを作った。とても面白くて、ビデオを見ればみるほど、ニカータは素晴らしい女性だ。それに、ビデオの音楽が素晴らしいです。自信がない時や緊張する時などその音楽を聞いて、いい感じになる。

3. フィードバックI:文章の添削^{てんさく}

文章が完成し、学習者が提出してきたら教師はフィードバックを返します。教師によるフィードバックは主に2種類あります。

一つ目のフィードバックは添削^{てんさく}です。ただ、さまざまな研究によると、細かすぎる添削^{てんさく}はあまり教育効果がないという結果が出ています。そのため、教師が誤りを直接直すのではなく、自分で考え、直させるよう添削^{てんさく}の方法を変えると、モニタリングの力を伸ばすことができます。例えば、色分け添削^{てんさく}です。

- ・文法の誤り
- ・意味が分からない、または不自然。語や表現を変えた方がいい
- ・表記の誤り
- ・∧ 必要な文字(語)が抜けている
- ・文体の混同
- ・不要

…(省略)…

彼は日本のアーティストの中で有名なシンガーソングライターであるだけではなく、世界中で知られています。彼はミュージックワールドツアー[∧]をしたとき、アメリカとカナダ[∧]も行ったことがあります。どこになんでも、youngさんのプレゼンテーション[∧]を行うとき、いつもお客さんがたくさん行きます。

私にとってyoungさんの声はとても特別な声です。実は彼の声のトーンは劇的なテナー[∧]ですから、低いトーンから、すごく高いレベルまで歌えます。とってもかっこいいよ!

図1 色分け添削の例

黄色、薄い青、薄い緑、濃い緑、ピンクのマーカ、そして山の記号(∧)が書かれています。それぞれ何を意味していると思いますか。これらの色は、言語項目などの誤りを指摘しています。黄色は文法の誤り、薄い青は意味がわからなかったり不自然な言い方をしたりしているところ、薄い緑は表記の誤り、濃い緑は違う文体が入っている、ピンクはない方がいい表

現、山(八)は送りがなや助詞などが抜けているということを表しています。学習者は、これらのフィードバックをヒントにもう一度書き直し、再提出します。

【タスク 2】 学習者が書いたブログ(一部)を色分け添削^{てんさく}してみましょう。

私が特に好きな曲はありませんが、大好きなCDは「THE MOON SKY」です。そのCDは日本語も英語も書いているから全部の曲が好きです。それに、そのCDは young さんの最初ソロ活動ですが、彼の心を込めたので全部の曲でそれが感動させています。歌詞が日本語なので意味をすべて理解したわけではないですが、歌のメロディーから聴くだけで切ない気持ちになります。

では、そういうことで young さんの歌を聴く始まるつもりだったら、「THE MOON SKY」はお勧め^{すす}めよ。

3. フィードバック 2: 肯定的なコメント+読み手としてのコメント^{こうていてき}

フィードバック1は主に正確さに重点を置いたものでした。そのため、否定的なフィードバック^{ひていてき}がどうしても増えてしまいます。学習意欲を失わせないように「いい表現を知っていますね」など、肯定的なフィードバック^{こうていてき}もいっしょに返すようにしましょう。今回の課題(タスク)はブログを書くことだったので、一般の読み手としてのコメントもフィードバックをお願いします。日常生活の中では、読み手は書いた内容に対するフィードバックを返しますね。一読者として、読んでコメントしたくなったことを書くと、本当のコミュニケーションに近くなります。

4 作文の評価:評価シート

すべての活動が終わったら、しめくりとして評価シートを使って今回の活動を評価します。

作文は、点数で評価することが難しいため、かわりにここにあるような評価シートを使うといいです。

表 1 評価シートの例

The table is titled '表 1 評価シートの例'. It features a blue arrow at the top pointing right, labeled '達成度' (Achievement Level). A purple arrow on the left points downwards, labeled '評価項目' (Evaluation Items). The table has four columns: 'もう少し! その理由' (A little more! Reason), 'できた!' (Did it!), 'すばらしい! その理由' (Great! Reason), and an unlabeled column for '活動' (Activity). The rows represent different evaluation items: '活動', '構成' (Structure), '文法的な正確さ' (Grammatical accuracy), '語彙の使いこなし' (Vocabulary use), '文字・表記' (Text/Spelling), '書き直しの努力' (Effort in rewriting), and 'ほかの学習者と学ぶ姿勢' (Attitude towards learning with others).

	もう少し! その理由	できた!	すばらしい! その理由
活動	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 好きなアーティストについて、なぜ好きなのか、何という曲が好きなのか、どうして好きなのか、歌以外にどんなところが好きなのかなどを具体的に書くことができた。	<input type="checkbox"/>
構成	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 単純な方法で結びつけられた脈絡のあるテキストを作ることができた。	<input type="checkbox"/>
文法的な正確さ	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 複雑な内容を述べようとすると大きな誤りをするがあるが、必要な文法や文型は読み手を混乱させない程度に正確だった。	<input type="checkbox"/>
語彙の使いこなし	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 複雑な内容を述べようとすると大きな誤りをするがあるが、必要な語彙は使いこなすことができた。	<input type="checkbox"/>
文字・表記	<input checked="" type="checkbox"/> 間違った漢字が多かった。、がなくて読みにくかった。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
書き直しの努力	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 自分で考え、何度も書き直して作文を完成させた。	<input type="checkbox"/>
ほかの学習者と学ぶ姿勢	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> クラスメイトのコメントを聞いたり、ほかの人の作文にコメントしたりしていた。	<input checked="" type="checkbox"/> 他の人が書いた文章に熱心にコメントしていた

縦の列から見ていきましょう。縦の列には評価項目が並んでいます。上から「活動」。これは課題(タスク)の内容のことですね。続いて、「構成」「文法的な正確さ」「語彙の使いこなし」「文字・表記」。ここには言語に関するものが並んでいます。4つあげましたが、数が多すぎて学習者の負担になるようであれば、2つを1つにまとめたり、評価項目から外したりしてもいいです。授業中、力を入れて指導することを残してください。さらにその下です。「書き直しの努力」「ほかの学習者と学ぶ姿勢」。この2つは、意欲や授業態度を評価する項目です。

まじめに授業に取り組んでもらうため、教師が必要と判断すれば、項目に含めていいと思います。

続いて、横の行です。横の行は、達成度を表します。左から、「もう少し」「できた」「すばらしい」です。「できた」の欄に注目してください。縦に見ていくと、評価項目ごとの具体的な意味がわかります。「活動」の欄は課題を作るときに考えた指示文を利用しています。「構成」「文法」「語彙」「文字・表記」の言い換えを自分で考えて書くのは大変ですが、みんなの Cando サイト (<https://jfstandard.jp/cando/top/ja/render.do>) を利用すると適切な記述が見つかります。評価をする際は、「できた」の説明を読んで、達していると思ったらこの欄にチェックをつけます。では、「できていない」「もっとできている」と思ったときはどうしたらいいでしょうか。「もう少し」「すばらしい」の欄はそのためにあります。評価者は、「できた」の欄を読み、ここに達していないと判断したら「もう少し」の欄にチェックをつけ、そう思った理由を書きます。「すばらしい」も同じです。「できた」を読んで、もっとできていると判断したら「すばらしい」の欄にチェックをつけ、なぜそう思ったのか理由を書きます。評価シートに書かれている内容を学習者が日本語で理解するのはとても大変です。そのため、記述は母語などの共通言語で行った方がいいです。

実は、評価シートは課題の指示文を作るときにいっしょに作るものなのです。そして、授業の最初の動機づけの際、学習者に提示し、何を評価するのか事前に共有しておくことがとても大切です。「先に言っておいてほしかった」と、後から学習者に言われないように、書く前に必ず提示するようにしてください。

この評価シートは、教師が使うほか、学習者自身も自己評価に使います。同じ文章を読んで、同じ評価シートで評価することで、学習者の評価に対する意識が強まり、書きっぱなしがなくなります。教師評価と自己評価が違っていった場合、どうしてそうなったのか、考える機会にもなりますね。評価の目があれば、教室の外で書いた日本語の文章も自分の目でチェックできるようになります。課題と評価はセットで用意するようにしましょう。

5 長期間にわたる書く力の伸びを記録・評価する：ポートフォリオ

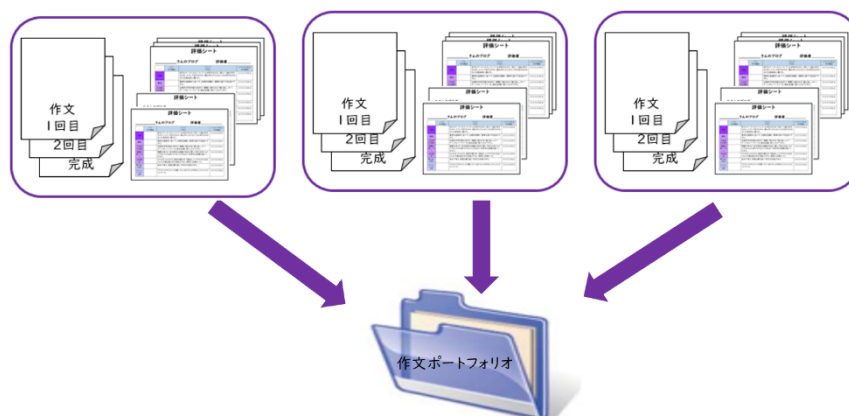


図 2 作文ポートフォリオの構成

今回は、ブログを書くという活動を扱いましたが、書く活動には、^{おれい}御礼の手紙、アポイントのメール、調べたことをまとめたレポートなど、いろいろあります。それぞれの活動でどのようなことができるようになり、どのような伸びが見られたのかを記録し、評価するため、作文の授業にはポートフォリオをお勧めします。ポートフォリオは、ある人が一定の期間にわたって行ってき

た活動を体系的に収集したファイルのことです。ファイルの中に、授業で書いた文章や評価をまとめておけば、「コースの前後で書く力がどれくらい伸びたのか」「どのような書く活動を体験したのか」を把握することができます。まとまった期間の貴重な学びの記録を是非残してください。

6 まとめ

この時間に扱ったことをまとめて終わりにしましょう。

- 「推敲」の際、「内容」「言語項目」「読み手意識」などに注目して読み返し、文章を完成させます。
- 文章(テキスト)が完成したら、教師は添削やコメントなどのフィードバックを返します。
- 作文の評価には「評価シート」を利用すると便利です。教師は課題(タスク)を作るとき、いっしょに評価シートを作っておきます。そして動機づけの際、学習者と共有し、何を評価するのか明らかにするようにします。
- 評価シートを使って自己評価をさせると、学習者自身が積極的に評価に関与することにつながり、評価の目を養うことができます。
- 長期間にわたる書く力の伸びを記録し、評価するツールに「ポートフォリオ」があります。

■ このパートの^{さんこうぶんけん}参考文献と参考サイト

・国際交流基金(2010)『書くことを教える』(国際交流基金 日本語教授法シリーズ8)

ひつじ書房

・国際交流基金(2016)『まるごと 日本のことばと文化 中級 I BI』三修社

・みんなの Can-do サイト

<https://www.jfstandard.jp/cando/top/ja/render.do>

■ タスクの答え

【タスク1】

指示文の指示に^{したが}従っていない。(音楽関係のアーティストではなく、ファッションデザイナーについて書いている。

表記の誤り:アーテイスト 見れば見るほうど

文法の誤り:私は好きな／ブランドがあり　。／ニカータは誰か誰も／素晴らしくい／

緊張する時／その音楽を聞いて

情報が足りない:女性は SNS で／ニカータは素晴らしい女性だ　。

読み手意識・丁寧体と普通体の混同:誰も知らなかったが／ビデオを作った／素晴らしい

女性だ／いい感じになる。

【タスク2】(省略)